

第8回 尼崎市総合計画審議会 専門部会 議事録

日時	令和3年12月24日(金) 18:30~
開催場所	WEB会議
出席委員	青田委員、梅谷委員、加藤委員、川中委員、瀧川委員、武本委員、花田委員、久部会長、室崎委員
欠席委員	稲垣委員、堀田委員、八木委員
事務局	塚本総合政策局長、中川政策部長、田中総合計画担当課長、総合計画担当職員

1. 開会

- 資料の確認
- 位置付けについて

- 議事録署名委員の指名
武本委員、川中委員

2. 第6次尼崎市総合計画 素案(案)について

【資料第1号】第6次尼崎市総合計画 策定(案)

【資料第2号】主要取組項目 (具体の取組項目・指標一覧)

【資料第3号】総合計画等協議会・審議会からの主な意見対応一覧

<資料説明>

(部会長)

本日、事務局から「主要取組項目」の特に指標を中心に議論をしたいという申し出があり、そこが一つの論点になるということで、まずは「まちづくり構想」の21ページまで、続いて「まちづくり基本計画」の24ページから28ページの「主要取組項目」を中心とした部分、最後に32ページの「施策別の取組」以降の部分と、3つのパートに分けて議論をさせていただきたいと思います。

(委員)

18ページの「ひと咲き まち咲き あまがさき」の中の『みなぎる。つながる。わたしたちのチカラ』とか『ほっとかない だれも なにも』とか『きり拓く。ひと、しごと』とありますが、句読点の使い方がバラバラで、例えば、『ほっとかない だれも なにも』のところに句読点は何も無いということになっているので、統一感を持たせた方が良いと思います。

(事務局)

表記を統一いたします。

(部会長)

21ページまでで他に無いようでしたら24ページから31ページまでの特に「主要取組項目」

の①②③④、さらにその中でも特に事務局が意見を聞きたいという「指標」について議論をさせていただきたいと思います。

(委員)

「②生きがい・ささえあい」の指標で「安全で安心して暮らせるまちだと感じる市民の割合」というものがあり、「安全で安心して暮らせるまち」というのは「生きがい・支えあい」においては共助だけを指すのではないかと思います。21ページの「持続可能な社会を支える基盤整備」で「自然災害の備え」と書かれていて、これは公助となっています。「安全・安心」を「②生きがい・ささえあい」に入れたということですが、これは共助だけの問題になっているのではないかというのが、少し気になりました。

また、「生きがい・ささえあい」の項目にリスク管理の観点を入れることはどうかという点ですが、これは議論かなと思います。参考までに他都市はどう書いているのかを調べたので、共有させてください。神奈川県から宮崎県までの中核市と政令市の総合計画で「安全・安心」はどこに位置付けているかを調べてみました。施策別の取組に書いているところもありますが、上位に位置付けているところが多かったです。例えば横浜では5つの柱の中とか、川崎は5つの基本政策とかですね。「目指す都市像」とか「8つのエンジン」の中とか、基本的な施策のところで、そういう災害が想定されるところは、それなりの危機感を持っていると感じました。だから尼崎も書かなければいけないとは申しませんが、情報提供ということで紹介させていただきました。

(部会長)

29ページのところの書きぶりが、全体的に共助の内容なので、もう少し公助と共助が合わさって、「安心・安全」が確保できるというニュアンスを表現できないかということだと思いますので、事務局も文言の工夫をお願いします。

(委員)

「生きがい・支えあい」というタイトルなので、どうしても共助になってしまい、難しいとは思いますが、ご検討いただければと思います。

(部会長)

福祉の分野でも、どうしても共助中心になってしまいますが、最低限は公助をしっかりとやらしてもらわないといけない部分があるので、そこを含めて書きぶりをご検討いただければと思います。また、事務局が特に指標について悩んでおられますので、こっちの方がいいといったご意見があればお願いします。

(委員)

「②生きがい・支えあい」の指標について、指標の考え方としては大項目を中心に考えていくのか、中項目の具体的な取組を指標として測っていくのかという、まず基本的な考え方がどうなのかということになるのかなと思います。仮に大項目に重きを置くのであれば、「生きがいを持つ」というのが指標になるとは思いますし、中項目に重きを持つとすれば当然「健康寿命」となっていくのかなと思います。他の「主要取組項目」とのバランスもあるかと思

ますが、そこがどういうものなのかを考えた方が良いのではないかとこのころです。また、市として力を入れたい部分に、より推進力を増すために指標を置くという考え方もあるかと思ひます。そう考えると、中項目で健康を推されていますから、指標に「健康寿命の延伸」を置くのもありかなと思ひます。どのようなコンセプトで指標を設定するのかという点が大事なのかなと思ひます。

(事務局)

基本的には大項目を測っていくものであると考えております。主要取組項目は、それぞれ指標を2つ設定しており、理想としては主観的な指標と客観的な指標を組み合わせたかと思ひます。「②生きがい・ささえあい」では、「地域共生社会の実現に向けた環境づくり」で主観的な指標を置いておりますので、できれば「健康でいきいきと暮らすことができる地域づくり」については、客観的な指標を設定したいと考え、「健康寿命の延伸」を指標としております。

(部会長)

【資料第2号】主要取組項目(具体の取組項目・指標一覧)(以下【資料第2号】という)ですが、「生きがいをもつ市民の割合(全年齢の活躍)」にしてしまうと、両方とも主観的な指標になってしまいますよね。

(事務局)

はい。そういう意味では今回は「健康寿命の延伸」を設定していきたいと思ひております。

(部会長)

そういうバランスをとるならば、「生きがいをもつ市民の割合(全年齢の活躍)」にはならないということですよ。

(事務局)

はい。ただその一方で、「③ 魅力 向上・発信」の指標では、客観的な指標を設定しづらいため、代替案も含め、両方とも主観的な指標になっております。また、「地域活動や生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合」はここだけ見ると主観ですが、「地域活動に参加している」という点が少し客観的な意味合いを持っているため、若干ですが、客観的な視点も入った指標になっております。基本的には主観と客観を組み合わせで設定したいところですよ。

(委員)

指標は必ず2つずつということなのでしょうか。

(事務局)

できれば客観指標と主観指標の1つずつ、計2つを設定していきたいと思ひております。

(委員)

「脱炭素・経済活性」のところで「①市域におけるCO₂排出量」という指標を設定しており、

これは「脱炭素」に関わる部分として書かれています。一方で、「経済活性」の指標は「②買い物や食事、趣味など尼崎市内で楽しめている市民の割合」として、消費者側の視点で見ているわけですが、代替案に「イノベーションに向けて新たな事業にチャレンジする人や事業所数」があり、これは事業者側の視点であると思います。これは視点が違うので、代替ということにはならないというか、全然違うものが入ってきているのではないかと思います。確かに消費者視点の指標も必要だし、事業者視点での視点も必要だしと思うと3つ設定するのも良いのではないかと思います。

(委員)

今委員のご指摘があった指標に関しては、必ずしも2つに限定する必要は無いと思います。というのは「脱炭素・経済活性」の位置づけが総合計画の中で小さすぎるのではないかと思います。前々から同じようなことを言っていますが、やはり都市の将来を展望する上で「経済」というのは、当たり前のことですが極めて重要です。書き始めるときりがありませんが、これだけ見ていると「脱炭素」が上にきていて、イノベーションに象徴される「経済活性化」や「活力」が1番下に張り付いているだけに見えてしまいます。率直に言って、尼崎は「経済」をもうやめているのか、という感じが見えなくもないです。

経済というのは常にダイナミックに動いていて、そのダイナミズムを言葉として組み込んでいただきたいですし、指標の中にも、そういうものが組み込まれているという構図を示していただきたい。これだけだと、「起業・創業、イノベーション」という言葉は出ていますが、それ以上のことはしないととれる。既存の中小企業に対する提案も特にないですし、尼崎が必要としている産業の展開で言えば、イノベーションを起こすための知識とか技術をどのように人に伝えていくのが重要です。思い付きですが、例えば尼崎の北にある産業技術大学とどう連動していくのかというような、もっとポジティブで、今後の尼崎を切りひらくようなキーワードとか書きぶりがぜひとも欲しい。もしこの総合計画を経済界の方が見られたら、尼崎はもう産業はいいのか、と思われるのではないかと懸念があります。

日本全体が経済の突破口を見出そうとしている時ですが、尼崎はこういう方向性を持っている、日本経済はだめでも尼崎だけはいける、というぐらいの意気込みを、ぜひとも表現していただきたいですし、指標も供給側を示すものを取り入れていただきたいと思っております。

(部会長)

今の委員のご意見を踏まえ、もう一度施策レベルの指標を拝見しましたが、この主要取組の指標は、57ページと59ページの各論の指標が再掲されているだけですよね。これはとてももったいないと思います。同じ「指標」が載っているだけなので、もっと大きなものをここで示していくという意味で、重ならない別の指標を採用した方がいいのではないかなと思います。そういう意味では、代替案として示されている尼崎市 GRP とか、経済活性の全体を測る指標を設定するなど再検討をお願いしたいと思いますが、各論の指標と重なるのであれば、二酸化炭素排出量抑制のようなブレーキ側ではなく、もっと環境をイノベーションにつなげる、産業をイノベーションにつなげていくといった、いわゆるグリーン経済的な考え方を測る指標を考えたらよいのではないかと思います。この辺りはご意見が多かったので、また事務局側、特に環境部局、経済部局と一緒にご検討いただきたいと思っております。

(委員)

部会長のご指摘の通りで、ここの「脱炭素・経済活性」というのがワンセット、パッケージになっている意味というのは、「脱炭素」「カーボンニュートラル」が尼崎の中小企業も含めたイノベーションと結びつく、というデザインを産業政策として持つ、ということは書いてもいいのではないかと。どんな指標があるのかはわかりませんが、そうすることでポジティブな尼崎の産業のありようを示す総合計画としての役割を果たせそうな気がします。

(委員)

指標ですが、先ほど客観的な指標と主観的な指標を設定したいというお話があったと思いますが、どちらも客観的な指標ではだめでしょうか。また、「脱炭素・経済活性」に関しては、「イノベーションに向けて新たな事業にチャレンジする人や事業者数」という指標について、どうやって測るのがわかりにくいのではないかと思います。

今委員の発言があったように、「脱炭素」を進める中で、尼崎市として、イノベーションを支援し、そういった企業の取組により、経済を活性化させていくという方向性を示し、実現するんだということをぜひ書いていただきたいと思いました。

具体的な指標に関しては、案として、「②買い物や食事、趣味など尼崎市内で楽しめている市民の割合」というものを挙げておられます。これは、市内で満足な買い物ができることを測る指標ではありますが、例えば環境も含めて、「持続可能な観点を買い物に入れられる市民の割合」といったものを測るのはどうかと思いました。満足感も重要ですが、なかなか尼崎市内で地産地消を言うとちょっと難しいと思いますので、それよりは買い物する時に持続可能という視点を持ってくれる市民が増えたら「経済活性」、「脱炭素」の両方につながるということにもなるのではないかと思います。

(部会長)

客観的な指標が2つ並んでも良いのではないかと、という指摘ですがいかがでしょうか。

(事務局)

現在の指標が完璧に客観的、主観的というセットになっていないことは認識しておりますので、より適切な指標があれば、それを含めて検討は可能であると思っております。

(部会長)

施策の効果がしっかりと市民に伝わっているかどうかを確認したい、アウトカムとして確認したいので、主観的な指標を設定しているということかと思えます。つまり、主観的、客観的ということにこだわるのではなく、適切にアウトカムを測ることができる指標になっているかということが重要なのだと思います。

(委員)

「学びの推進によるシチズンシップの向上」の指標の案で「①地域活動や生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合」というものが挙がっています。これは、学びの推進や生涯学習の推進というのは手法であり、その結果として能動的な市民性が向上し、地域活動への参加

が増えてほしいという、そこが成果の部分だと思います。そう考えると、今の指標で地域活動「or」生涯学習活動となっていますが、ゴールは地域活動や市民活動に参加してもらうことだと思いますので、「or」ではなく「地域活動に参加している市民の割合」とした方が良いのではないかと思います。生涯学習活動という手段を評価しても、それはプロセスの評価にしかならないため、成果を測るためには「地域活動に取り組んでいる」とか「地域活動や市民活動に取り組んでいる」あるいは「地域活動やソーシャルビジネスに取り組んでいる」といった成果を測る指標にした方が良いのではないかと思います。

(委員)

27 ページの「主要取組項目」の4つは、分野横断的に取り組んでいく項目を挙げているということですが、これを読んだときに、どんな分野が横断的になっているのかがわかりにくいと思いました。内容をそれぞれ見ながら、施策別の取組などを見比べていくと、この辺のことが重なっている、というのはわかりますが、ここは施策ごとの関連を書くのか、もしくは、「ありたいようす」の5つキャッチフレーズみたいなものを今回作っておられますが、例えばその中で2つのフレーズが関わっている、といったことを書くのか。5つキャッチフレーズを作っていますが、その後にはあまり出てこないのので、主要な取組の関連を示すことができる方が良いのではないかと思います。

また、先ほどの指標の選定については、施策別の取組の中から1個ずつ選んで載せているものもあるとのことですが、分野横断的に取り組むことだからこそ、より大きな視点の指標が良いのではないかと思います。

(部会長)

今のご指摘は、どことどこが繋がっているのかということをもっとビジュアルで表現してくださいということなので、マトリックスになるのか、あるいは今回の【資料第2号】で示していただいたようにツリーとするのか、また総会までに検討をお願いします。

続いて、34 ページ以降について議論をさせていただきたいと思います。ここは書きぶりを大きく変更し、今までのキーワードを現状や課題等に取り込んでいますが、書きぶりや、抜け落ちが無いかといったところを、それぞれの専門的な観点で見いただければと思います。

(委員)

以前のイメージでは「用語解説」がそれぞれのページの下にあったような気がしますが、今回は「用語解説」というのはどこに記載される予定でしょうか。

(事務局)

「用語解説」について、欄外に記載していましたが、ページの都合上、まとめて巻末に記載するように変更しております。

(委員)

39 ページ「施策2 人権尊重・多文化共生」の「4 施策の進捗状況を測る代表指標」が2つ設定されていますが、どちらも市民の意識を聞く指標となっているところに少し引っ掛かりがあります。「3 施策の展開方向」には行政サイドが環境を作り上げていく、というこ

とがいっぱい書いてあるのに、その進捗は全て市民の意識で測ります、となっている。「I 市民意識調査の「自分と異なる人も受け入れたい」と回答した人の割合」というのを聞いていますが、行政が色々な事業や取組を展開した結果、市民の意識の変化があって、自分が自分らしく生きていけているかということ、例えば「自分の人権が尊重されていると感じている人の割合」と設定するのはどうでしょうか。周りが「異なる人も受け入れたい」と言っているかどうかより、「本人が受け入れてもらっているかどうか」と聞いた方が良いのではないかと思います。

(部会長)

「LGBTQ」については、三重県伊賀市がかなり積極的に取り組んでいて、「アライ (ALLY)」を推進している。「アライ」というのは「LGBTQ」を認識して応援しようとするという活動ですが、これを市としてやろうとしている、また、パートナーシップ宣言もしっかりやっていて、そのことによって伊賀市だったら住めるという同性パートナーの方々が増えているという事例も出てきています。今の委員の意見にもありましたが、どういう状況であったとしても尼崎市なら安心して暮らせる、とっていただいている市民がどれだけ増えているかというところを指標とした方が良いのではないかと思いますので、またご検討をお願いします。

60 ページ「施策 13 都市機能・住環境」について、「3 施策の展開方向」「(3)良好な都市環境の整備」「② 都市の防災性向上、建築物更新等を支援する制度の運用」に「都市美誘導」という言葉があります。尼崎は「都市美」について 40 年以上前から全国に先駆けて、こだわって進めている歴史があります。それはもっと誇ってもいいのではないかと思いますので、60 ページの現状の 2 つ目「・都市景観の向上」に、全国に先駆けて「都市美」の推進に取り組んだということに記載してほしいと思います。また、その成果として、40 年以上前の「都市美」推進の取組の一つとして、寺町の環境保全を進め、保存ができています。そこは書き加えておいていただければありがたいなと思いました。

(事務局)

少し記載が弱いかもしれませんが、「現状 (成果)」の 2 つ目の「・都市景観の向上」の 2 行目「全国的にも早期に都市美形成計画を策定し」と記載しております。

(部会長)

「先駆けて」とか「いち早く」という強い文章の方が良いかなと思いました。

(委員)

57 ページの「施策 11 地域経済・雇用就労」「3 施策の展開方向」の「(1)地域経済の活性化や循環の促進」「①新製品の開発や IoT 化の導入等の支援など、ものづくり産業 (製造業) のイノベーションの促進」で「ものづくり産業 (製造業)」という言葉があります。この「ものづくり産業」というノスタルジックな表現をここで使われた理由と、さらにこれに (製造業) と書かれている理由がよくわかりません。「ものづくり産業」とひらがなで書くことで、今やっていることを引き続き頑張ってください、という意図があるとしたら、産業論としては致命的だと思います。イノベーション、創意工夫、知恵の集中は、必ずしも製造業だけで

はなく、サービス業も含め全体にかかってくるものですから、あえてここで製造業に焦点を当て、限定する必要はないのではないかと思います。

また、「(2) 起業・イノベーションの促進」とありますが、起業とイノベーションは並べるものではなく、起業と並べるのであれば、「起業・開業の促進」という方が良いのではないかと思います。イノベーションを目標として記載するならば、経済の領域では全体がイノベーションとなるため、例えば表題を付けると、「イノベーション尼崎への展開」と表現も考えられると思います。

もう一つ「(1)地域経済の活性化や循環の促進」「③事業所訪問や産業団体・金融機関との連携による事業継続の促進支援の充実や減災アドバイザーの活用など減災対策への取組促進及び危機意識の醸成」は非常に重要なことだと思います。これからの都市経済、地域経済というのは、この考え方をもって「ソフトインフラ」あるいは「ヒューマンインフラ」として機能させていかないと展望が見いだせない。また、「産官学金労言」という多様な主体が連携する「プラットフォーム」について、尼崎は先行している都市だと思いますので、そこを強調するように記載したら、前向きに取り組む、取り組んでいるということが伝わって良いのではないかと思います。ちなみに海外の文研の中ですと、「トリプルヘリックス」という表現をしており、これはまさしく「産官学」です。むしろこういう領域では海外の方が遅れていると思っているので、尼崎が先行しているところをブラッシュアップしていく、というような表現をしていただきたいです。

(部会長)

イノベーションと言いつつ、それが一つの柱になっていないという印象を私も受けましたので、この辺りの整理の仕方や文言を、もう一度関係部局と一緒に考えていただければと思います。また、66 ページのところの「デジタルトランスフォーメーション」も同じで、「トランスフォーメーション」や「イノベーション」と言いつつ、革新が全く起こっていないような内容となっているように思いますので、今は時代の非常に大きな変革期であるということ認識していただき、産業の革新や行政の革新をもっと強調してほしいと思います。

(委員)

54 ページ「施策 10 消防・防災」の「現状（成果）」の最後「要配慮者（災害時要援護者）支援の推進」について記載がありますが、「主な課題」の4つ目「大規模災害への継続した備え」よりも非常に文字量が多くなっています。ここは、バランスを見たときに、前者を少しコンパクトにして、後者の説明をもう少し記載した方が良いのではないかと思います。例えば、「南海トラフ巨大地震」や「異常気象に伴う豪雨」などを記載されていますが、これを2つに分けて記載するのはどうかと思います。また、「現状（成果）」のところに「多発する自然災害」というのが無いので、それを記載しても良いのではないかと思います。

「代表指標」については、以前にもお伝えしていますが、「要配慮者」について言うと、共助の視点が必要になる部分ですが、「代表指標」ではあまり触れられていません。例えば「災害で助け合いが大事だと思っている人の割合」という指標を入れるとわかりやすいのかなと思います。できれば「共助を大事だとわかっている人の割合」といった視点の指標があれば良いと思いました。

(部会長)

国土交通省が治水の考え方を大きく変えてきており、溢れないようにするのではなく、溢れた時でも人命、財産の被害を減らすようにという考え方になっています。都市計画的にも洪水の危険性のある所には住まないように、という考え方によって変わってきていますし、これまでは200年に一度の大雨を想定していましたが、今では千年に一度の大雨が降った時にどうなるかというところまで想定しています。千年に一度の雨なら、尼崎が浸水する危険性が出てくると思いますので、ハザードマップの書き方や、人が住んでもいいところ、いけないところという線引きを、そのあたりを踏まえて考える必要があると思いますので、先ほどの委員のご指摘を受けて水害のリスクについての記載も検討いただければと思います。

(委員)

今のハザードマップのお話ですが、100年に1回の高潮で、尼崎は浸水のリスクがあります。100年に1回でも2、3メートル沈むところが結構多かったと記憶しています。そういった意味で、水害のリスクも少し書き込んで良いと思いました。

また、54ページ55ページの右側の「3 施策の展開方向」の「(1)消防力の充実」の「②消防法令違反処理の実効性向上や、効果的な査察を推進するための予防査察体制の強化」は正しいことが書かれていますが、表現が少し難しいと思いましたので、もう少し市民の方に分かる様な表現の方が良いと思いました。

(委員)

60ページ「施策13 都市機能・住環境」、「主な課題」の最後「都市基盤整備における社会的課題への対応」に、「バリアフリー」という言葉が入っています。「バリアフリー」は作ったバリアをなくしましょうということですが、これからは、誰もが使いやすい環境にしましょうということで「バリアフリー」ではなく、「ユニバーサルデザイン」や「誰もが使いやすい環境」といった表現の方が良いと思います。また、20ページの「多文化共生社会への対応」という文章の中で「外国人だけでなく、誰もが住みやすく」という言葉がありますが、「外国人だけでなく」という表現が少し引っかかります。あえて記載することで、それは違っているという印象を受けるので「外国人も含めて」といった、インクルーシブな行政の視点だという記載でも良いと思います。

(委員)

今後のことにはなりますが、総合計画が出来上がった後、例えばホームページで読み上げ機能を付けることや、視覚障害の方等への配慮、また、計画の多言語化や子どもでもわかりやすい総合計画みたいなものも検討いただければと思います。

(部会長)

様々な方が対応できるような公表の仕方を検討いただきたいということですので、よろしく願います。また、尼崎はホームページを多言語化するときに、専門の方がいるのか、自動で多言語化するソフト等を使っているのかどうされているのでしょうか。他の自治体で公表していたものが、カタコトになっていることがありましたので、そのあたりはしっかりとチェックをしていただくことが、「誰でも暮らしやすいまち」につながるのではないかと考え

ています。

(事務局)

基本的にはグーグル等の翻訳ソフトを使って対応しており、市報等については「カタログポケット」といった別のソフトも活用し、英語以外の幅広い多言語、現在で11言語程度に対応しております。また、ご指摘のように一般のソフトでは、行政用語的な専門用語等がうまく翻訳されない場合が非常に多いので、単語登録等で可能な限り適切に対応できるようにしています。完璧に対応できているわけではないという認識はありますが、総合計画の周知にあたって可能な限り対応はしていきたいと考えております。

(事務局)

1点確認させていただきたいのですが、「施策1 地域コミュニティ・学び」の名称について、「地域コミュニティ」という言葉が、読み方によっては「地縁型」のコミュニティのイメージで受け取られてしまう可能性を危惧しています。現在の表記の意図としては、自治のまちづくり条例上、「地縁+テーマ型」のコミュニティとして捉えています。そういった懸念や違和感がないかどうかを委員の皆様にお伺いしたいです。

(部会長)

基本的に地域を単位にして色々活動して頂いて、支えあいを強化していきたいという意味で使われているとすれば「地域コミュニティ」でいいと思います。一例ですが、生駒市では「複合型コミュニティ」という言い方もしており、今までのように、地域住民の方だけで従来型のコミュニティを作るのではなく、多様な主体の方が入るという意味での複合と、分野も複合的という意味での複合と、その両方を合わせた「複合型コミュニティ」という言い方をしています。しかし、それも基本は地域単位であるため、地域の中に様々な主体の方が入っておられるというように捉えれば、違和感はありません。従来型のイメージで「地域コミュニティ」を捉えてしまうと、先ほど事務局からの投げかけのように、違和感があるのかもしれませんが、地域を単位とした新たなコミュニティづくりをこれから展開していく、という意味での「地域コミュニティ」という理解であれば、違和感はなく、むしろ積極的に進めていただきたいと思います。

(委員)

同じく特に違和感はありません。地域というものを、どのサイズで捉えるのかということ、規定されていないので、尼崎という地域のコミュニティをどう再生していくのか、あるいは新しく創建していくのかと捉えれば、グローバルコミュニティのようなものではなく、一定の圏域を設定したと理解できます。一方で、地縁コミュニティと記載されると違和感がありますが、地域コミュニティであれば、結構ではないかと思います。

(委員)

65 ページ「職員の資質向上とワークライフバランスの推進」について、ワークライフバランスを推進するということは、ある意味職員一人一人の人権をちゃんと守っていきましようというところもあるわけです。もちろん生産性が上がるという側面もありますが、職員の人

権も尊重していく、というようなこと記載しても良いのではないかと思います。以前分科会でも、市の職員や教職員の方々の人権を守る環境を作らないといけない、という意見も出ていたように思いますので、安心して働けるというような記載をしていただけないかと思います。

(部会長)

職場環境をもっと良好なものにしていく、という観点ですね。勤務時間の時間的な感覚だけではなく、職場環境そのものの居心地を良くしていく、という観点がもう少し表現できればというご指摘かと思っておりますのでご検討いただければと思います。また、同じ部分で、職員像が従来型なので、もっと未来型の公務員像がこの「①職員の資質向上」に記載されていた方がよいと思います。また人材育成担当と調整していただければと思います。

(事務局)

たくさんのご意見をいただきありがとうございます。特に産業部分については、大きな宿題をいただいたと思っておりますので、担当部局ともう一度検討していきたいと思っております。「主要取組項目」の考え方については、指標も含めてもう一度庁内で考え、次回お示しをさせていただきます。

今後のスケジュールですが、1月14日に総会を開催させていただきまして、そこでもう一段階ブラッシュアップした素案として見ていただきたいと思います。本日冒頭の説明に時間を要してしまいましたが、次回の総会にあたりましては、事前にできる限り皆様に説明させていただいたうえで、当日の説明自体をある程度圧縮し、意見交換の時間を多く取りたいと考えております。また、総会后ですが、いただいたご意見を反映させ、2月からパブリックコメントを実施、さらに並行してタウンミーティングを実施し、市民の皆様にも素案を見ていただこうと思っておりますので、引き続きよろしくお願い致します。

(部会長)

それでは今日はこれで閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

以 上